

## 論文要約

|  |  |
|--|--|
| 論文名  | 非営利組織の会計情報開示のシグナリング機能に関する実証研究<br>ー私立大学と社会福祉法人を分析対象としてー |
| 氏 名  | 黒木 淳   |
| <p>近年、わが国非営利組織への信頼が揺らいでいる。すなわち、不祥事、詐欺、不正経理、多額の内部留保、提供されたサービスの安全性の揺らぎ、過度な市場競争、などの問題が生じている。これらの問題は、非営利組織と外部者が有する情報の格差を意味する情報の非対称性の程度と深く関係している。わが国非営利組織への揺らぐ信頼の回復を図るためには、情報の非対称性を緩和させなければならない。近年、情報の非対称性の緩和をめざす方策として、非営利組織の自発的な会計情報開示が注目されている。</p> <p>本論文は、なぜ非営利組織が自発的に会計情報を開示するのかについて、実証的に明らかにすることを目的とする。この目的を達成するために、本論文では、情報の経済学の 1 つであるシグナリングを参考として、非営利組織の会計情報開示のシグナリング機能を、「好業績の非営利組織が、サービス市場や寄附市場に対して、自発的に会計情報を開示している」と定義し、実証分析をおこなう。本論文は 3 部から成り、8 章と補論、補章で構成される。</p> <p>第 1 部は本論文の実証分析の準備としての位置づけであり、非営利組織会計に追加された情報提供機能とその背景を整理し、リサーチ・デザインの設定に参考とすべき先行研究の要約を目的とした第 1 章および第 2 章で構成される。第 1 章では、非営利組織を「剰余金の分配を禁ずる非分配制約を有する民間組織」と定義し、わが国非営利組織の会計情報開示のシグナリング機能を検証する重要性を指摘した。第 2 章では、「情報の非対称性」および「非営利組織の自発的な会計情報開示」に関連する先行研究をレビューした。</p> <p>第 2 部は、非営利組織の「好業績」を測定するために、わが国非営利組織の業績評価尺度を設定した第 3 章、第 4 章、補論で構成される。第 3 章では、わが国私立大学および社会福祉法人の業績評価尺度を、サービス提供努力と、その結果得られた資金調達の側面から明確にした。そして、第 4 章では、私立大学の教育研究経費の重要性を指摘したうえで、教育研究経費とその他の財務指標との関連性を検証した。また、補論では、社会福祉法人の事業費の重要性を指摘したうえで、事業費とその他の財務指標との関連性を検証した。</p> <p>第 3 部は、わが国非営利組織の自発的な会計情報開示の実態および決定要因を分析することを目的とした第 5 章から第 7 章、補章、非営利組織の会計情報開示の経済的帰結を明らかにすることを目的とした第 8 章で構成される。第 5 章では、私立大学は積極的に会計情報を開示しているが、他方で社会福祉法人は会計情報開示に消極的であることがわかった。このような差異を踏まえ、その後の章では、なぜ非営利組織が会計情報を開示するのかについて、会計情報開示のシグナリング機能の観点から仮説を設定し実証分析した。具</p> |  |

体的に設定された仮説は、効率性仮説、財務健全性仮説、資金調達仮説、規模仮説の4つである。第6章、第7章、補章の実証分析の結果、会計情報開示のシグナリング機能が部分的に観察された。すなわち、効率性仮説、資金調達仮説、規模仮説を支持する結果であった。そして、第8章では、私立大学の会計情報開示の経済的帰結を分析した。その結果、私立大学の会計情報開示は追加的な資金調達に有用である、とする期待と首尾一貫するものであった。

最後に、終章では、本論の学術的貢献や、制度的なインプリケーションを提示した。本論文で得られた結果は、会計情報開示のシグナリング機能が非営利組織にも部分的に適用可能であることを示している点で重要である。また、本論文の結果は、非営利組織が事業費や管理費の使途について戦略的に考える必要があることを示している。さらに、本論文の発見事項は、今後の非営利組織を対象とした会計研究に新たな展開を拓く基礎となるであろう。